



コアの説明をする Hohenegger 教授です。



干潟に生息する
シャコ(*Upogebia
pusilla*,体長10cm)



U字型をしたシャコの巣穴(深さ約15cm)

船上のテレビに海底の生物が映し出され、みんな興味深く見ていました。水銀が多い河口域でも、たくさんの生物の巣穴があり、水の透明度も高く、水俣沖の海底とはずいぶん違います。Pervesler教授がスキューバダイビングでコア試料を採集し、Hohenegger教授が堆積物の特徴を説明しました。その後、試料は研究者に配られました。

なお、Hohenegger教授の働きにより、オースト

リア政府から援助を受けました。多くの学生さんが、会議と巡検で一生懸命に働いていました。関係者の努力と関係機関の理解に、一同感謝していました。

(報告)

ただいま「センター報」作成中

センターが設立されて1年半が過ぎました。現在、センター報として公表するために、組織、各分野ならびに個人の紹介、活動報告などの取りまとめを行っています。しばらくお待ちください。

南高だより」に紹介されました

7月5日から6日にかけて行われた熊本県立八代南高等学校理数科の野外実習の成果が、広報誌「南高だより」に紹介されました。9枚のカラー写真と生徒さんの感想文から、野外実習や室内実験の様子が生き活きと伝わってきます。この実習は、八代南高校が熊本県の指定を受けて熊本大学と連携して行う授業で、本年度と来年度実施されます。

総合科目を振り返って

有明海・八代海の現状を知ってもらうために、今年度から1年生を対象に、総合科目「有明海・八代海を科学する」を開講しました。50名の定員に対して、65名の希望があり、抽選で選びました。研究室にも多数の電話がありましたが、お断りしました。

最新の研究成果を紹介するために、3名の非常勤講師に来熊していただき、熊本大学理学部地球科学

科の先生にも協力していただきました。紙面を借りて、お礼申し上げます。

以下に13回の講義内容を示しました。出席率も高く、各先生が提示した課題についての興味深い内容のあるレポートが数多く提出されました。来年度も、開講します。

- ・4/17 内野明德 (沿岸域センター長):沿岸域環境科学教育研究センターと有明海・八代海
- ・4/24 松田博貴 (理学部地球科学科):有明海の堆積作用
- ・5/1 秋元和實 (沿岸域センター):諫早湾干拓事業と環境変化
- ・5/8 長谷義隆 (理学部地球科学科):有明海の過去1万年の海洋環境
- ・5/15 石賀裕明 (島根大学総合理工学部):有明海の干潟堆積物の元素組成からみた環境変化
- ・5/22 大木公彦 (鹿児島大学総合研究博物館):南部八代海の堆積物と底生有孔虫群集からみた環境変遷
- ・5/29, 6/5 逸見泰久 (沿岸域センター):有明海・八代海の生物と漁業, 有明海・八代海の種多様性
- ・6/12, 6/19 瀧尾 進 (沿岸域センター):有明海の植物植物分子生物学で何が研究されているのか?、「ノリの色落ち」の仕組みはどこまで分かっているのか?
- ・6/26 松岡数充 (長崎大学水産学部):有明海的环境変化と赤潮
- ・7/3, 7/10 滝川 清 (沿岸域センター):有明・八代海の高潮特性と海岸環境の現状, 有明海の物理環境の現状と改善の処方箋